

## 絵の合成・分解 ①

### ◆◆◆どうして絵の合成分解をするの?◆◆◆

PYGLI能力育成問題集の『絵の合成・分解①』や『絵の合成・分解②』のところで説明しましたように、小学校になって、算数でくり上がり、くりさがりの加減計算ができない子どもは、この問題をまちがいます。構成把握能力や合成分解能力が前提となって、数論理能力が創られているからです。

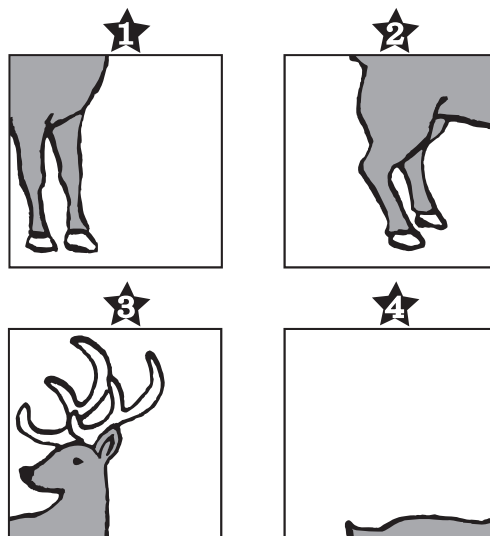
(詳しい説明は、能力育成問題集の『絵の合成・分解①』などの指導上のポイントを参考にしてください。)

### ◆◆◆指導上のポイント◆◆◆

4分割されて、バラバラに置かれた絵を、元の位置にもどす問題です。

この問題の解答方法についてですが、例えば、下の問題に関して言えば、鹿の頭の位置を、右上のところと考えて、空白の欄の右上のところに3と書き込みます。次には、左上のところに4、右下に1と書き込み、確認しながら3の下で1の左に2を書き込みます。

それらが並んだら、1つの絵が完成している状態を、頭に思い浮かべながら、すすめてください。答えがわからない場合は、答えを教えるのではなく、実際に、この絵をコピーしてからパーツごとに切ります。パズルのように組み合わせて、正確な絵を見せてから、もう一度問題を試みましょう。

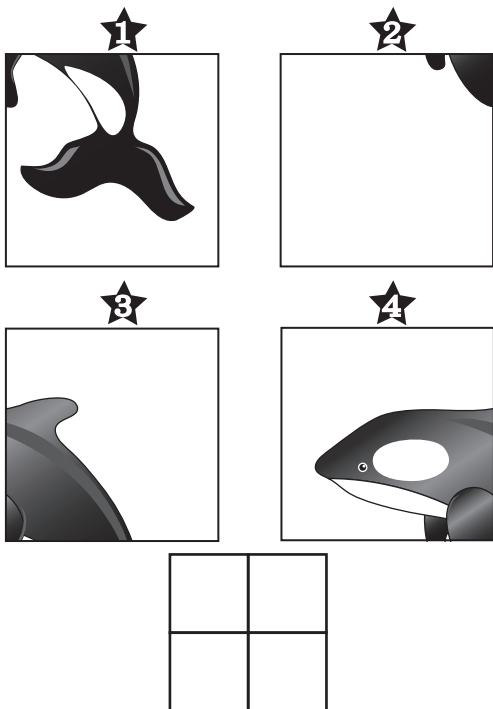


|   |   |
|---|---|
| 4 | 3 |
| 2 | 1 |

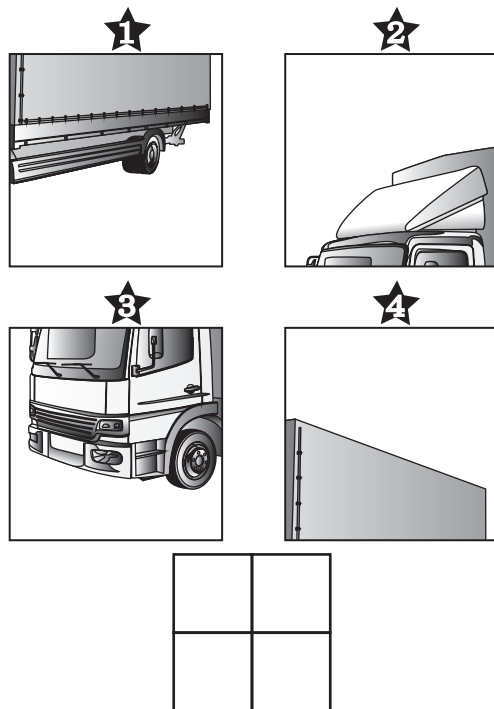
(時間：1ページ1分程度)

もと え もど い か  
元の絵に戻すには、どのように入れ替えればよいでしょう。  
した わく なか ばんごう こた  
下の枠の中に番号で答えましょう。

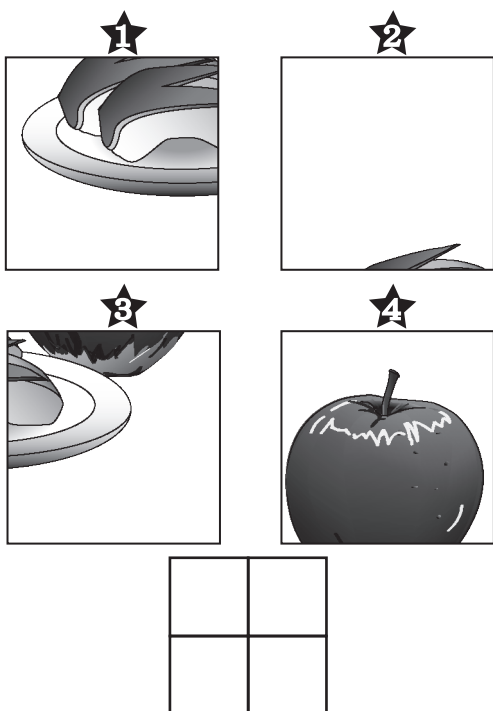
## 問題1



## 問題2



## 問題3



## 問題4

